

図1. 余震観測の観測点配置と海底地形。赤丸は今回設置した自己浮上式海底地震計の位置。黒点は、9/8から9/16までの気象庁により震源決定された余震を海底地震計のデータのみを用いて震源再決定した震央位置。緑の星は、9/5 19:07の前震、9/5 23:57の本震、及び9/8 23:58の最大余震の震央位置。青線は1998年に海洋研究開発機構により実施されたOBSを用いた構造探査測線(Nakanishi et al., 2002)。白丸は、1998年に実施された構造探査の海底地震計の位置で、この地震計のデータを用いて、震源決定に必要な速度構造を求めた。

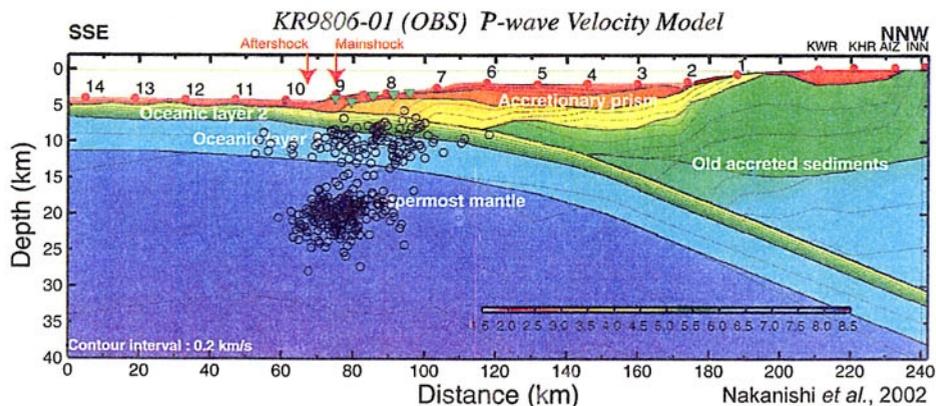


図2. 1998年に行われた構造探査により求められたP波速度構造(Nakanishi et al., 2002)に、一元化リストに基づいて行われたOBSデータによる震源決定の結果のうち、水平方向に1km以下、深さ方向に3km以下に求めた精度のよい震源のみ(黒丸)を投影した。背景の色はP波速度構造を表す。赤丸は構造探査に用いられたOBSの位置。緑の三角は、今回の緊急観測で用いた海底地震計の位置。本震と最大余震の震央位置を投影した位置を矢印で示した。